

山口大学医学部
医学科後援会

会報

vol. 19

2026. 01

Newsletter

Yamaguchi University School of Medicine

超高齢・少子フロンティアを切り拓く 国立5大学による包括連携協定締結式



5 つの地方国立大学医学部が連携する「Alliance5」が本格始動

特集 1

神経解剖学講座 / 解剖学とともに歩む

特集 2

世界から山口へ /
～「迎え入れる」ことで広がる医学部生の国際交流～

TOPICS

令和7年度 白衣着衣式

ご挨拶

山口大学医学部医学科後援会会长

石原 得博



高市早苗総理大臣の経済政策において成長が期待されますが、全国的に医療機関や介護施設の経営の厳しさが指摘されています。事実、新型コロナウイルス感染症が5類になって以来、全国の多くの医療機関、大学の附属病院さえも赤字経営が続いている。地域医療はさらに厳しくほとんどの自治体立病院は大きな赤字を抱えています。こんな時代に医学部に入学して大変だと思うかもしれません、決して世の中から病人が少くなり、医療を必要とする人が少なくなったわけではありません。以前にもまして、医療を必要とする人は増えています。立派な医師は何時の時代でも必要とされています。むしろ、医師不足は深刻です。特に地域医療に携わる医師は少なく、しかも高齢化しています。山口県も若手の医師が減少しています。山口大学医学部の卒業生は毎年

100人以上いますが、多くの卒業生が他県に就職します。山口県の病院は医師不足により病床を削減せざるを得なくなっています。卒後の進路を考えるときには一考してください。

明るい話では今年もノーベル賞の発表があり、2人の日本人研究者が受賞しました。生物学・医学賞を受賞されました坂口志文氏は免疫学分野系の研究が評価されました、免疫分野の研究で2018年に受賞された本庶佑氏は宇部高校・京都大学の出身で、お父さんが山口大学医学部耳鼻咽喉科の教授でした。宇部市の教育環境は悪くないと思います。

学生諸君は部活をはじめ、いろいろな行事を行なながら、気を抜くことなしに頑張り、進級や卒業試験の厳しさを乗り越えましょう。皆さんは医学という崇高な職業を選択したのですから一生勉強です。

後援会としては、山口大学に入学して良かったと思えるように、家庭と緊密な連絡をとりながら学生の福利厚生の手助けができればと思います。

教職員および保護者の皆さん宜しくお願いします。

新年のご挨拶

医学部長

田邊 剛



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新しい年をお迎えになられましたことを心よりお慶び申し上げます。

本学医学部は、新年度を迎え、教育・研究・国際化そして地域連携のさらなる発展を目指し、取り組みを一層推進しております。

研究面では、医学部全体として、神経変性疾患への新規治療法開発、脳脊髄閥門の新規モデル開発、再生医療や細胞シート移植、さらには生活習慣病や高齢化に伴う疾患へのアプローチ、新生血管型加齢黄斑変性への治験など、幅広い研究領域で新たな可能性に挑んでいます。

さらに今年度は、五つの地方国立大学医学部が連携する「Alliance5」が本格始動し、各大学が長年蓄積してきた三世代以上の縦断データと、高度解析技術を結集した広域研究基盤が整備されました。地域の生活習慣・気候・遺伝的背景の違いを活かした比較研究が可能となり、単独大学では成し得ない学術的価値を生み出します。また、中枢神経薬物動態解析、統合オミクス解析、血管炎症モデル、神経難病レジストリなど、参加大学の独

自技術を融合させることで、創薬・病態解明・精密医療研究における新たな領域が拡大しつつあります。

教育面では、デジタル技術やAIを医療教育に取り入れる取り組みが進み、学部・大学院を通じて学習成果に基づく教育体系の強化が図られています。看護学・検査技術学の基盤教育に加え、臨床培養士養成のための教育環境整備など、地域医療を支える高度専門職の育成も充実しています。また、山口東京理科大学との連携や、Alliance5を活用した大学院教育の共同化や若手研究者の大学間ローテーションにより、複数領域を横断的に学ぶ環境が形成され、次世代研究人材育成の新しいモデルが構築されています。

国際化では、医療英語教育の実践的強化、海外研究室での研修機会の再開、国際的医学教育認証に向けたカリキュラム改善が進展しています。学生が海外の医療現場を直接経験するプログラムや、アジア地域の大学との交流も拡大し、国際的視野を備えた医療人育成が着実に進んでいます。

本年の干支「丙午」は、勢いよく前進し物事が形を成す年とされています。山口大学医学部にとっても、これまで積み重ねてきた取り組みが成果として実を結び、教育・研究・国際交流・地域貢献の各領域で新たな飛躍が期待される一年となります。

皆様の変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和7年度

理事会報告

書面審議(令和7年7月22日~8月5日)

■ 令和6年度事業報告

令和6年度の実施事業について、主なものをご紹介します。

1. クラブ活動に関する事業

- (1) 課外活動及び自治会活動への助成
- (2) キャンパス間移動用バス運行補助

クラブ活動に参加する1年生送迎(吉田キャンパス ⇄ 医学部キャンパス)のために、バス借上げ費用の一部を補助

※各クラブの先輩が後輩を車で送迎することの常態化による事故等の危険性を防ぐため、平成24年度から、学生自治会及び利用する部活動からの負担金、医学科後援会及び保健学科後援会からの補助により送迎バスの運行を継続して実施しています。

実施期間: 令和6年6月~令和6年2月 運航日数 105日

運行方法: 大型バス又は小型バス
週5日(平日)運行、1日1往復
吉田キャンパス発: 月~金曜日 18時00分
医学部キャンパス発: 月~金曜日 22時30分

2. 医学祭の運営に関する事業

3. 医学教育に関する事業

- (1) 医学部生特別講演会の開催

講座主催による学生向け講演会を実施(4講座分)

 - ①医科学講座/「核細胞の構造と機能」
開催日時: 令和6年7月19日(金)
 - ②公衆衛生・予防学講座/「宗教と医療」
開催日時: 令和6年9月27日(金)
 - ③薬理学講座
免疫薬理学
開催日時: 令和6年10月25・26日(金・土)
「難治疾患に挑むケミカルバイオロジー」
開催日時: 令和6年11月28日(木)
 - ④システムバイオインフォマティクス講座
「細胞デザイン医科学研究所システム医学情報研究部セミナー」
開催日時: 令和6年12月13日(金)
- (2) 医学教育に係るFD助成 ※令和6年度は実績なし
- (3) 臨床実習への補助
- (4) ワクチン接種経費の補助: 臨床実習開始前のワクチン接種費用
自己負担軽減のための助成
- (5) 医師国家試験対策への補助: 模擬試験料の補助
- (6) 篠志解剖全国連合会参加の助成
- (7) 学生の、就学環境・生活環境の整備
- (8) 高度学術医育成のための奨学金助成
※該当者がないため実績なし

4. 正常解剖体蒐集に関する事業

5. 入学卒業の運営に関する事業

- (1) 大学入学共通テスト及び個別学力試験の補助

6. 保護者会運営に関する事業

- (1) 入学式後保護者会移動用バス借上げ料

■ 令和7年度事業計画

令和6年度に継続して同様に事業を実施します。

1. クラブ活動に関する事業
2. 医学祭の運営に関する事業
3. 医学教育に関する事業
4. 正常解剖体蒐集に関する事業
5. 入学卒業の運営に関する事業
6. 保護者会運営に関する事業

■ 医師国家試験受験状況

発表日	新卒者			既卒者			合計		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
第117回(R5.3.16)	128	124	96.9%	10	3	30.0%	138	127	92.0%
第118回(R6.3.15)	109	103	94.5%	10	5	50.0%	119	108	90.8%
第119回(R6.3.15)	121	115	95.0%	11	6	54.5%	132	121	91.7%

■ 令和7年度 役員のご案内

役員名	氏名	現職
会長	石原得博	山口大学名誉教授
副会長	黒川典枝	霜仁会副会長
顧問	田邊剛	医学部長
保護者理事	夏山文太	
	林雅太郎	
	花村泰成	
	藤井慎一	
	若佐裕治	
	東良和	
	若松弘也	
	田村博史	
	草野倫好	
	安部浩司	
医学科関係事理	山本義明	(新任)
	池本恭子	(新任)
	松永和人	病院長
	白澤文吾	教授(学生委員長)
	中森雅之	教授(副学生委員長)
監事(保護者)	太田康晴	教授(教務委員長)
	白澤文吾	教授(副教務委員長)
	田尾健	霜仁会理事
	夏山文太	
	中村和行	山口大学名誉教授

◆ 高度学術医育成のための奨学金 ◆

平成22年度から、文部科学省の特に社会的要請が強い分野の研究医を養成する施策に対応し、大学院への進学を奨励し将来の研究医を養成する目的で「高度学術医育成コース」を医学科に設置しています。

本コースには、高度学術医育成特別プログラム(SCEAプログラム)と高度学術医育成一般プログラム(AMRAプログラム)をもち、学部・大学院教育の一貫システムとして4年生から大学院授業の先取り受講や研究活動を開始することができます。

高度学術医育成特別プログラム(SCEAプログラム)は、履修者のうち年間2名に月額5万円の奨学金制度が用意されており、法医学を中心とする基礎系分野へ進路選択を行った場合には返還が免除されます。

解剖学とともに歩む

令和6年12月1日付で大学院医学系研究科・神経解剖学講座・教授を拝命しました小西博之と申します。医学科後援会の皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

我々の講座は、医学科生に対し解剖学の講義・実習を担当いたします。具体的には、骨学実習と脳実習の全範囲、肉眼解剖学実習の約半分の範囲、組織学実習の一部と、それらに関連する講義を主に担当いたします。身体の構造を学ぶ解剖学は、医学教育の根幹です。その後の学習の確かな基盤作りを目指します。担当する講義・実習の中でも、肉眼解剖学実習は医学科生にとって特別な体験です。知識の習得にとどまらず、献体という尊いご遺志を通じて、人の身体に触れる重みや医療を託される責任を学びます。その学びが、医師となる自覚や医師としての倫理観を育む契機となるよう、適切にサポートしてまいります。

山口大学では、医師・歯科医師を対象とした Cadaver Surgical Training (CST: ご遺体を用いた手術手技トレーニング) にも力を注いでおります。CST は、手術手技の向上や改良を通じ、患者様により良い医療を提供するための重要な取り組みです。ご遺体の管理などを通じて CST が円滑に進むようサポートすることで、現役医師・歯科医師の方々にも貢献してまいります。前述の肉眼解剖実習やこの CST という取り組みは、ご遺体の提供なくしては成り立ちません。山口大学医学部は白蘭会という献体団体に支えていただいています。お体を託して

山口大学大学院医学系研究科
神経解剖学講座

教 授 小西 博之



くださる白蘭会会員様に加え、献体をお許しくださるご家族のご恩に報いることができるよう、講座員一同、常に感謝の気持ちを忘れず尽力してまいります。

研究面では、神経再生のメカニズムを研究しております。脳梗塞に代表されるように、脳は損傷後の再生が起こりにくく、多くの機能が失われてしまいます。新たな治療法開発に向け基礎研究を進めます。教育面だけでなく、研究面においても「形を観る」ことに重点を置いております。細胞を例に挙げても、形と機能は表裏一体です。「形を見て機能に迫り、そして機能を知り形の本質を理解する」という理念をもとに研究を進めてまいります。

自身の研究はもちろんのことですが、研究に関する人材育成にも努めたいと思います。山口大学では、医学科3年生に対し、「自己開発コース」という約半年間の長い研究期間が設けられています。また、その教育プログラムとは別に、「オープンサイエンスコース」という自主的に研究参加するプログラムもあり、すでに数名の2年生が当講座で研究を始めています。研究の面白さに触れるきっかけを提供し、その興味を育むことで、研究マインドを持つ医師を多く育てていきたいと思います。

教育・研究の両面から医学科の発展に貢献してまいります。後援会の皆様には、引き続きご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。



～「迎え入れる」ことで広がる医学部生の国際交流～

山口大学医学部では、コロナ禍を経て再び海外大学からの留学生を積極的に受け入れています。イギリス・バース大学、インドネシア・ウダヤナ大学、タイ・マヒドン大学、ケニア・ナイロビ大学など、協定校から、留学生が年間、多数訪れてています。

留学なくとも、日常の中で生きた英語や異文化に触れられる機会が豊富にあるのが、本学の大きな特徴です。



■ 留学生との交流が、日常を変える

短期留学生は、附属病院での臨床実習に参加します。本学の学生と同じ白衣を着て、医学科4・5年生と一緒に回診などに参加します。カンファレンスでは、教員が英語で説明したり、時には本学の学生たちが通訳したりと、国際的なコミュニケーション能力の必要性を肌で感じています。

■ 勉強だけじゃない！
笑顔あふれる「交流会」

留学生が来日すると、学生有志によるウェルカムパーティーを開催します。

お互いの大学や国の医療について紹介したり、ゲームをしたり、最初は緊張していた学生も、すぐに打ち解け、会場は常に笑い声に包まれています。



医学科3年 松岡 理さん

交流会では留学生と世界各国の医学教育や医療水準について情報交換を行うことができます。医療課題が世界共通であることを実感し、日本国内だけでなく世界で活躍できる医師になりたい、と考えるようになりました。

リアルタイムな活動の様子は



公式 Instagram で！

国際交流の様子は、山口大学医学部公式 Instagram で随時発信しています。



これらの活動は、後援会の皆様のご支援により支えられています。今後も世界に開かれたキャンパスとして、学生たちが多様な価値観に触れ合える機会を創出していくります。

学生自治会 活動報告

令和
7年度

令和7年度山口大学医学部学生自治会長を務めさせて頂いております、医学科4年の浅井秀斗と申します。学生自治会とは、山口大学医学部に所属する全ての学生により構成される組織です。活動は多岐に渡り、新入生のサポート、学生主体の組織・団体（部活やサークル）の統括、医学教育や学内設備に関する先生方や学務課の皆様との懇談、各種委員会の調整などがございます。

まず4月に新入生歓迎行事を実施いたしました。本学の教室をお借りし、各部活・サークルがブースを作つて対面で説明を行い、その後実際に部活動を体験してもらうという流れを取りました。入学したばかりの一年生が上級生と親睦を深め、部活だけでなく講義や身の周りのことなどを尋ねられる良い機会となりました。

8月には、医学科4年生が中心となり地域医療探求セミナーおよび医学部オープンキャンパスに参加しました。医師を志す山口県の高校生を対象として、山口大学医学部を案内したり、学生生活・受験に関する質問を受けてたりして、県内の高校生と交流を行いました。

また同月に会長の浅井が厚生労働省「夏の職場体験」に参加いたしました。医学生にとって将来のキャリア選択肢の一つである医系技官の働き方を見学し、医療分野の専門家として行政に携わることの重要性を実感いたしました。実際に霞ヶ関で活躍されている本校卒業生の先生にもお話を伺いました。

山口大学医学部学生自治会
会長
医学科4年 浅井 秀斗



そして本年度は鹿児島で第77回西日本医科学生総合体育大会が開催されました。特に弓道部は団体男子が優勝、団体総合で準優勝を果たし、仙台において第59回全日本医科学生体育大会王座決定戦への出場という快挙を成し遂げました。西医体ではほかにもフットサル部が男子準優勝、柔道部が団体準優勝、ボート部が男子ダブルスカル2位など、数々の素晴らしい結果を収めました。中国四国大会においても軟式テニス部は団体戦アベック優勝、硬式テニス部は男子部で準優勝などと、多くの部活が各大会で功績を残しております。

課外活動に関わる予算につきましては、1年生が山口市-宇部市間を移動するためのバス代をはじめ、近年の物価高騰により様々な場面で影響が出ております。厳しい状況でありますながらも日々充実した活動に打ち込むことができるのには、何より医学科後援会の皆様からのご支援をはじめ、卒業生の先生方、大学関係者の方々のご理解、ご協力の賜物であります。学生を代表いたしまして、心より御礼申し上げます。

今後も学生一丸となり、将来の医療従事者たり得るよう勉学に励む傍ら、大会やコンクールなどの課外活動にもこれまでになく精を出してまいります。ご指導、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。



第80回 医学祭の開催について



本年度の山口大学第80回医学祭は、10月3日に前夜祭、4日・5日に本祭を開催いたしました。80回という大きな節目の年を迎えるにあたり、医学生一人ひとりが持つ情熱と活力によって地域社会を盛り上げたいという思いを込め、「医風堂々（いふうどうどう）」をテーマとして掲げました。このテーマには、医学を志す者としての誇りと責任を胸に、地域と共に歩み、堂々と前進していくという願いを込めております。

また、本年度も例年に引き続き医学会との合同開催といたしました。学術的な側面と地域交流の側面を兼ね備えた本行事は、地域の皆様にも医学部に親しんでいただける貴重な機会となりました。学祭の企画運営を一から構築するにあたっては慣れないことばかりで、準備段階では多くの困難に直面いたしましたが、多方面からの温かいご支援とご協力を賜り、無事に盛況のうちに終えることができました。この場をお借りして、ご尽力いただいたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

10月3日に実施された前夜祭では、恒例の実行委員による漫才と、ステージ企画を担当した4年生によるオープニングのパフォーマンスが行われました。続いて1年生による部活動対抗ダンスコンテストが開催され、初々しくもエネルギッシュな演技が披露されました。新入生の皆さんのが同級生との仲を深めながら、医学祭に興味をもつきっかけになったのではないかと思います。

4日の本祭初日には、ボディビル大会に相撲大会や制服コンテスト、さらに1年生の体力・知力・精神力を競う鉄人レースなど、個性豊かな企画が行われ、活気に満ちた一日となりました。特に本年度のアーティストライブでは、多くのアニメソングを手

山口大学医学祭実行委員会
委員長

医学科4年 張間 倖介



掛ける人気バンド「KANA-BOON」様をお招きし、迫力あるパフォーマンスを披露していただきました。学生のみならず地域の方々にも多数ご来場いただき、音楽を通して交流の輪が広がったと感じました。

5日の最終日には、軽音楽部および軽音サークルによるライブ演奏を皮切りに、豪華景品が並ぶbingo大会、そして恒例のミスター＆ミスコンテストなど、多彩な企画が続きました。後夜祭では、各学年によるダンスパフォーマンスが披露され、3日間の集大成として素晴らしいフィナーレを迎えることができました。

また、ステージイベントのほかにも、お祭り広場では各部活動による模擬店が連日出店し、学生や地域の皆様で大いに賑わいました。

さらに、医学祭の特色として地域の皆様に医学・医療を身近に感じていただくための企画も実施しました。ドクターヘリの展示会では、普段見ることのできない機体を見学できる貴重な機会を提供し、特に子供を中心の大変好評を博しました。また、心肺蘇生法講座では、学生が講師として実技指導を行い、来場者の皆様に命を守る技術を学んでいただきました。学生による研究発表や各部活動の展示でも、日頃の研鑽と成果を広くお示しすることができたと思います。

今回の医学祭を通じ、私たち医学生一人ひとりが「地域にある医療人」としての自覚を改めて強くする機会となりました。伝統ある山口大学医学祭の一員として、これまで築かれてきた歴史と精神を受け継ぎながら、新たな一步を踏み出す節目の年にふさわしい行事であったと感じております。

結びに、実行委員長として第80回医学祭の運営に携わらせていただけたことを心より光栄に思います。数々の課題に直面する中で、共に奔走した実行委員の仲間、温かく支えてくださった先生方、そしてご理解とご協力を賜りました地域の皆様に、改めて感謝申し上げます。皆様のご支援のもと、無事に医学祭を終えることができましたことを、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



TOPICS

トピックス

令和7年度 白衣着衣式を挙行しました

令和7年12月22日（月）、医学部講義棟C 第3講義室において、令和7年度白衣着衣式を執り行いました。

本式典は、医学生共用試験に合格した4年生に、医学生としての決意と自覚を促すことを目的に毎年実施しているものです。

式では、はじめに田邊剛医学部長より訓辞があり、続いて116名の学生を代表して松田陸来さんに、医学生共用試験合格証および臨床実習生（医学）証が授与されました。

その後、医学部同窓会霜仁会の福田進太郎会長の祝辞に続き、同会より寄贈された真新しい白衣に学生たちが袖を通しました。そして松田さんが謝辞と宣誓を行い、これから始まる医療現場での実習に向けた決意を力強く表明しました。

学生たちは令和8年1月より、医学部附属病院にて指導医のもと臨床実習を開始します。

